

2010年5月17日

報道関係各位

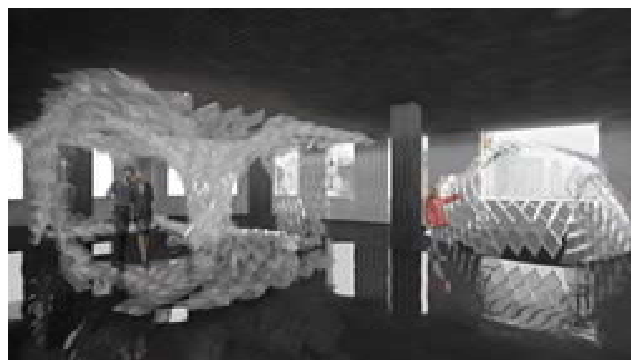
中国・上海での文化支援活動を通じた認知拡大の一環として
上海外灘3号ギャラリー企画展
『超空間 INBETWEEN』特別協賛

株式会社住生活グループ（本社：東京都中央区、社長：杉野正博）は、中国・上海の外灘3号にある“シャanghai ギャラリー オブ アート（Shanghai Gallery of Art / 滬申画廊、上海市中山東一路三号）”で、中国における住生活グループおよびその傘下企業の認知拡大の一環として、2010年6月4日（金）から8月8日（日）まで行なわれる企画展『超空間 INBETWEEN』を特別協賛します。

企画展『超空間 INBETWEEN』はキュレーター清水敏男氏の企画によるものです。『INBETWEEN』とは、内側と外側の敷居のこと。内側と外側を繋ぐ窓や扉は、清らかな風、優しい光、そして親しい人を招き入れます。しかし、汚れた空気や騒音、危害をもたらすような人物を遮断することもできます。この概念を、代表作「竹の家」をはじめ自然素材を活かした建築で中国でも人気の高い建築家 隈研吾氏、ロンドンオリンピックパークのタワー設計で話題沸騰中の彫刻家 アニッシュ・カプーア氏、没後20年近くになりながら、ますます高い評価を得ている世界的デザイナー 倉俣史朗氏、イタリアン・ポストモダンデザインの先駆者として世界的な評価を得ているエットレ・ソットサス氏の作品で構成します。

隈研吾氏は、再生可能な新素材により空気を建築するという試みに挑戦。空間全体を変貌させるほどの力を持つと評価されるアニッシュ・カプーア氏の8点からなる彫刻を展示するとともに、当時の最新技術を駆使して美しさを極めた、倉俣史朗氏のガラスのキッチン在上海の地によりみがえらせます。

物質性と非物質性、透明性と不透明性。それぞれの持ち味を生かした作品が相互に干渉しあうことで、ギャラリーの内部に濃密で変化に富んだ多次元空間を生み出します。



■ 隈研吾氏作品イメージ

住生活グループでは、株式会社I N A X（社長：川本隆一）が昨年7月にアメリカン スタンダード（アジア・パシフィック部門）を買収しアジアにおける販売網を強化、またトステム株式会社（社長：大竹俊夫）が4月に上海ショールームをオープンし本格的に戸建住宅・マンションなどの居住系住宅市場に本格進出するなど、成長著しいアジア、とりわけ中国市場への取り組みを強化しています。5月1日から始まった上海万国博日本産業館へも、トステム・I N A Xの両社が出展、住生活グループが考える「良い家」「良い暮らし」を提案しています。外灘3号ギャラリーでは、企画展の期間中、ギャラリー内に商談ルーム（隈研吾氏設計）を設け、住生活グループ各社の中国市場におけるビジネス展開へも活用していきます。

【施設の概要】

外灘3号

上海で租界時代の面影を色濃く残した旧イギリス租界の「外灘エリア(バンドエリア)」に位置し、浦東を対岸に眺める絶好のロケーションにあるショップ・レストラン等が入った複合施設。1916年に建てられたネオ・クラシック建築を改装して2004年6月にオープンし、上海で今、最も著名なスポットとされています。



■ 外灘3号外観

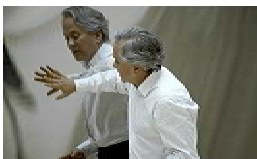
シャanghai ギャラリー オブ アート (Shanghai Gallery of Art / 滬申画廊)

外灘3号の3階にあり、中国の現代美術ギャラリーとしては最大級のギャラリーです。

【企画展の概要】

タイトル	: 超空間 INBETWEEN
会期	: 2010年6月4日(金)～8月8日(日)
入場	: 無料
展覧会ディレクター	: 清水 敏男
作家	: アニッシュ・カプーア(彫刻家)、隈 研吾(建築家)、倉俣 史朗(デザイナー)、エットレ・ソットサス(建築家・インダストリアルデザイナー)
場所・主催	: シャanghai ギャラリー オブ アート(上海市中山東一路三号)
特別協賛	: 株式会社住生活グループ トステム株式会社・株式会社INAX・アメリカン スタンダード・ニッタン株式会社・トステム鈴木シャッター株式会社

アニッシュ・カプーア(彫刻家)



1954年インド・ムンバイ生まれ、70年代初頭よりロンドンに在住し、アートカレッジにて学ぶ。1990年にベネチアビエンナーレthe Premio Duemilaを受賞、英国館の代表となる。1991年ターナー賞受賞など、今日にいたるまで、重要な美術賞を数多く受賞。以後英国を代表する現代美術作家の一人であり、他に類をみない独創的な作風は常に注目を集め、世界各国の美術館で展覧会を開催している。近年ではシカゴのミレニウムパークに、21世紀で最大の彫刻作品「ゲート」を制作し、人々を圧倒的な存在感で魅了。また、ロンドン、ロイヤルアカデミーで個展が開催され、赤いワックスを打ち出す大砲や、絞り出された大量のコンクリートの塊といった作品を発表し、大きな話題となった。今、世界でもっとも重要かつ最高のアーティストの一人である。

隈 研吾(建築家)



1954年横浜生まれ。1979年東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、2001年より慶應義塾大学教授。2007年～2008年イリノイ大学にて客員教授を勤める。2009年より東京大学教授。主な作品に「森舞台/登米町伝統芸能伝承館」(1997年日本建築学会賞受賞)「水/ガラス」(1997年アメリカ建築家協会ベネディクタス賞受賞)「石の美術館」(2000年国際石の賞)「那珂川町馬頭広重美術館」(2001年村野藤吾賞)2002年木の建築でフィンランドよりスピリット・オブ・ネイチャー 国際木の建築賞受賞。2007年「ちよっ蔵広場」でDetail Prize 2007など数多くの賞を受賞。翌年2008エネルギー・アーキテクチュアアワードを受賞。2009年6月、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受ける。近年のコンペ受賞作はプザンソン芸術文化センター、(2007年フランス) グラナダ・パフォーミングアーツ・センター(2008年スペイン)など。

倉俣 史朗 (デザイナー)



1934年～91年。東京生まれ。56年桑沢リビングデザイン科卒業。三愛宣伝課、松屋インテリアデザイン室を経て、65年にクラマタデザイン事務所を設立。西武百貨店カプセルコーナーを始め数多くの家具、商業空間を手がける。81年エットレ・ソットサスの誘いでメンフィス参加、89年パリにて個展を開き海外でも高い評価を得る。毎日産業デザイン賞、フランス文化省芸術文化勲章受章。無重力、浮遊感を独特な感性によって表現した作品はデザイン界に衝撃を与えた。代表作にMiss Blanche、Glass Chair、How High the Moonなどの家具、インテリアデザインでは、Issey Miyakeのブティックをはじめ商業施設を多く手掛けた。没後、96年原美術館での「倉俣史朗の世界」展は世界6都市を巡回した。

エットレ・ソットサス (建築家・インダストリアルデザイナー)



イタリアン・ポストモダンデザインの巨匠。鮮やかな色彩と独創的な造形などを特徴とする作品および制作スタンスで建築とインダストリアルデザインの両分野に強い影響をおよぼした。2007年没。

清水 敏男



美術評論家、学習院女子大学教授、TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE取締役。1953年東京生まれ。東京都立大学卒業後、ルーヴル美術館大学修士課程修了。東京都庭園美術館、水戸芸術館現代美術センタ・芸術監督を経て、近年は展覧会やアートイベントの開催、パブリックアートのプロデュースを中心に活動している。最近の主な活動に、「東京ミッドタウン・アートワーク」、「名古屋ルーセントタワー・アートワーク」、「多摩川アートラインプロジェクト」等がある。

この件に関するお問合せ先

株式会社住生活グループ 広報室 木寺^{みずはき}・水吐 TEL 03-5649-1139

株式会社住生活グループは、トステム(株)や(株)INAX等を傘下に持つ、純粋持ち株会社です。